



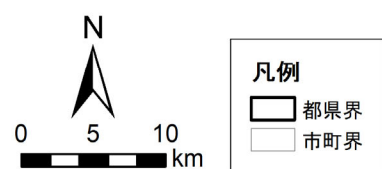
(1) 概況

1 位置・地勢

本市は、千葉県北西部に位置し、東京都心から約30km、県庁所在地の千葉市からは約45kmの距離にあります。市域は南北に細長く、市の総面積は103.55km²となっています。

市の周囲には、北は茨城県五霞町、境町、埼玉県幸手市、南は千葉県流山市、柏市、東は茨城県坂東市、常総市、守谷市、西は埼玉県杉戸町、春日部市、松伏町、吉川市が位置しています。

■ 野田市位置図



凡例	
	都県界
	市町界

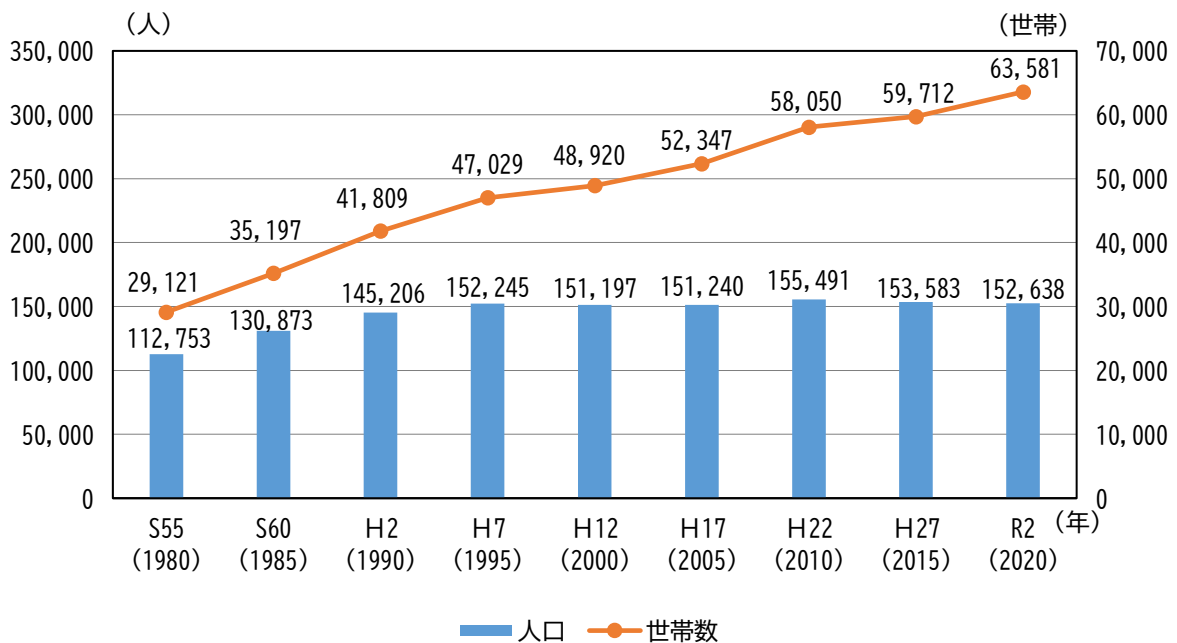
(2) 人口等

1 人口・世帯数の推移

人口・世帯数の推移をみると、本市の人口は増加で推移し、平成7年(1995年)以降は、約150,000人で横ばいに推移しています。また、世帯数は一貫して増加しています。

近年では、人口が横ばいで推移しつつも世帯数は増加していることから、1世帯当たりの人員が減少していることがわかります。

■ 人口・世帯数の推移



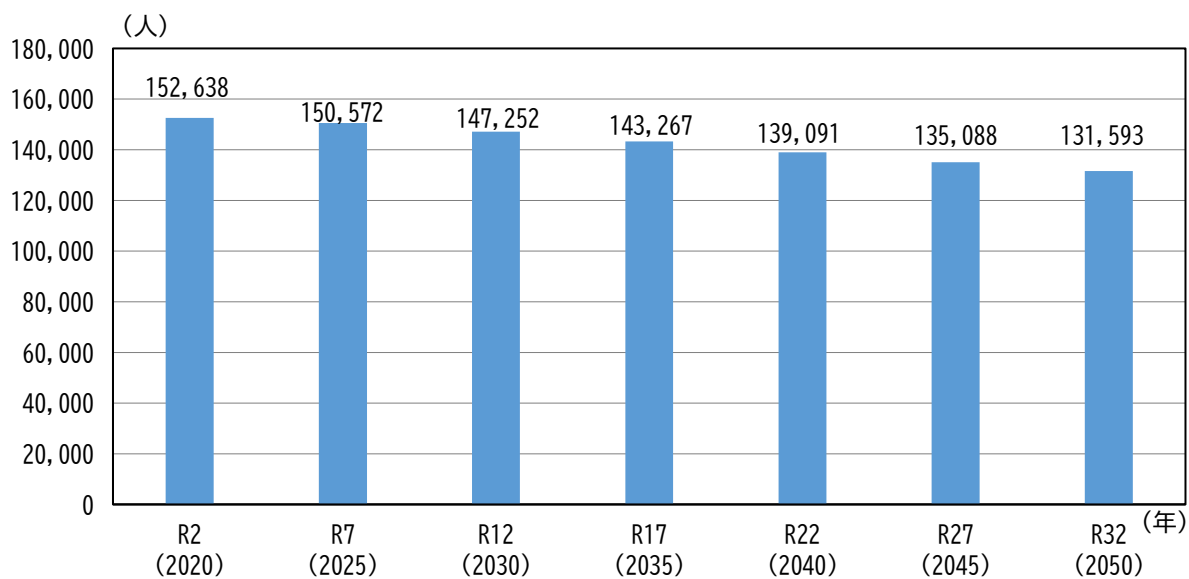
[出典：国勢調査]



2 将来人口の推移

将来人口の推移をみると、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計人口は、本計画の目標年である令和27年（2045年）には、135,088人と令和2年（2020年）の152,638人より、約1割の減少となることが推定されています。

■ 将来人口の推移



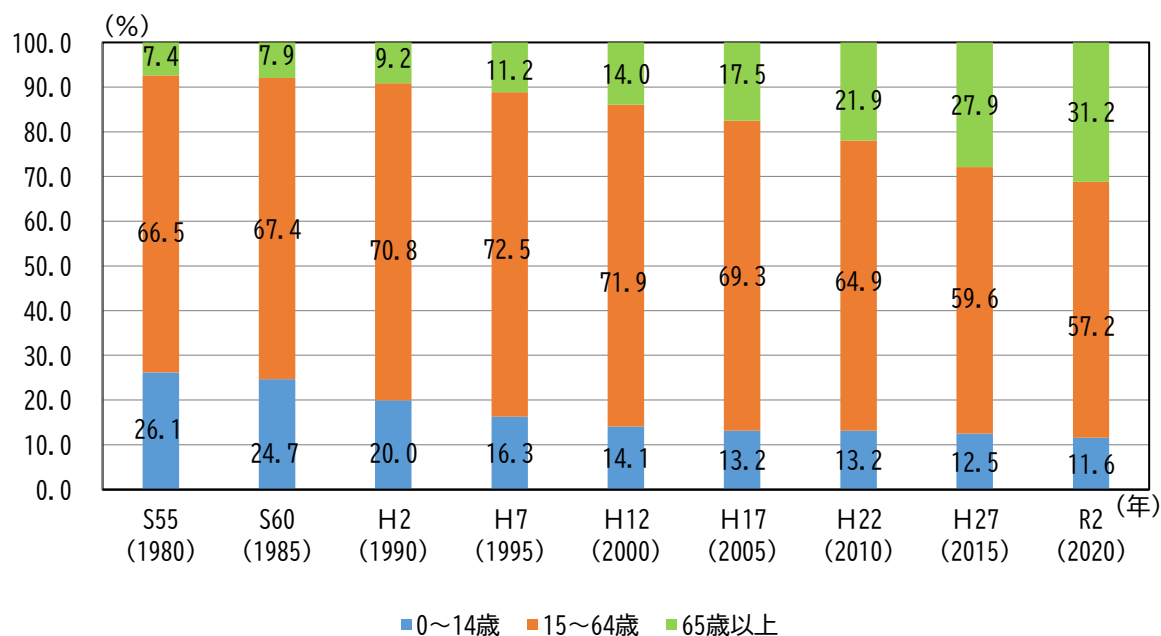
[出典：日本の地域別将来推計人口（令和5年（2023年）推計）、社人研]

3 年齢3区分別人口・将来人口の推移

年齢3区分別人口の推移をみると、0～14歳人口の割合が減少しているのに対し、65歳以上人口の割合は大きく増加しています。

昭和55年（1980年）の0～14歳人口の割合は26.1%、65歳以上人口の割合は7.4%であったのに対し、令和2年（2020年）の0～14歳人口の割合は11.6%、65歳以上人口の割合は31.2%であり、少子高齢化の進行が顕著です。

■ 年齢3区分別人口の推移

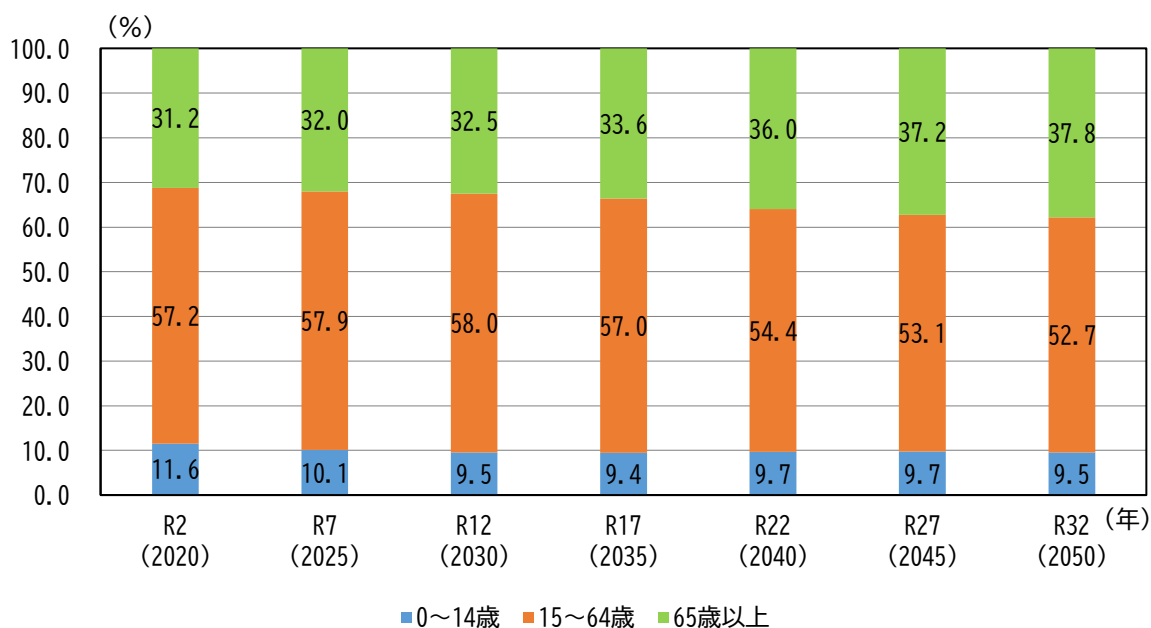


[出典：国勢調査]



年齢3区分別将来人口の推移をみると、令和2年(2020年)以降、0～14歳人口の割合は微減、15～64歳人口の割合は減少、65歳以上人口の割合は増加すると推定されています。

■ 年齢3区分別将来人口の推移

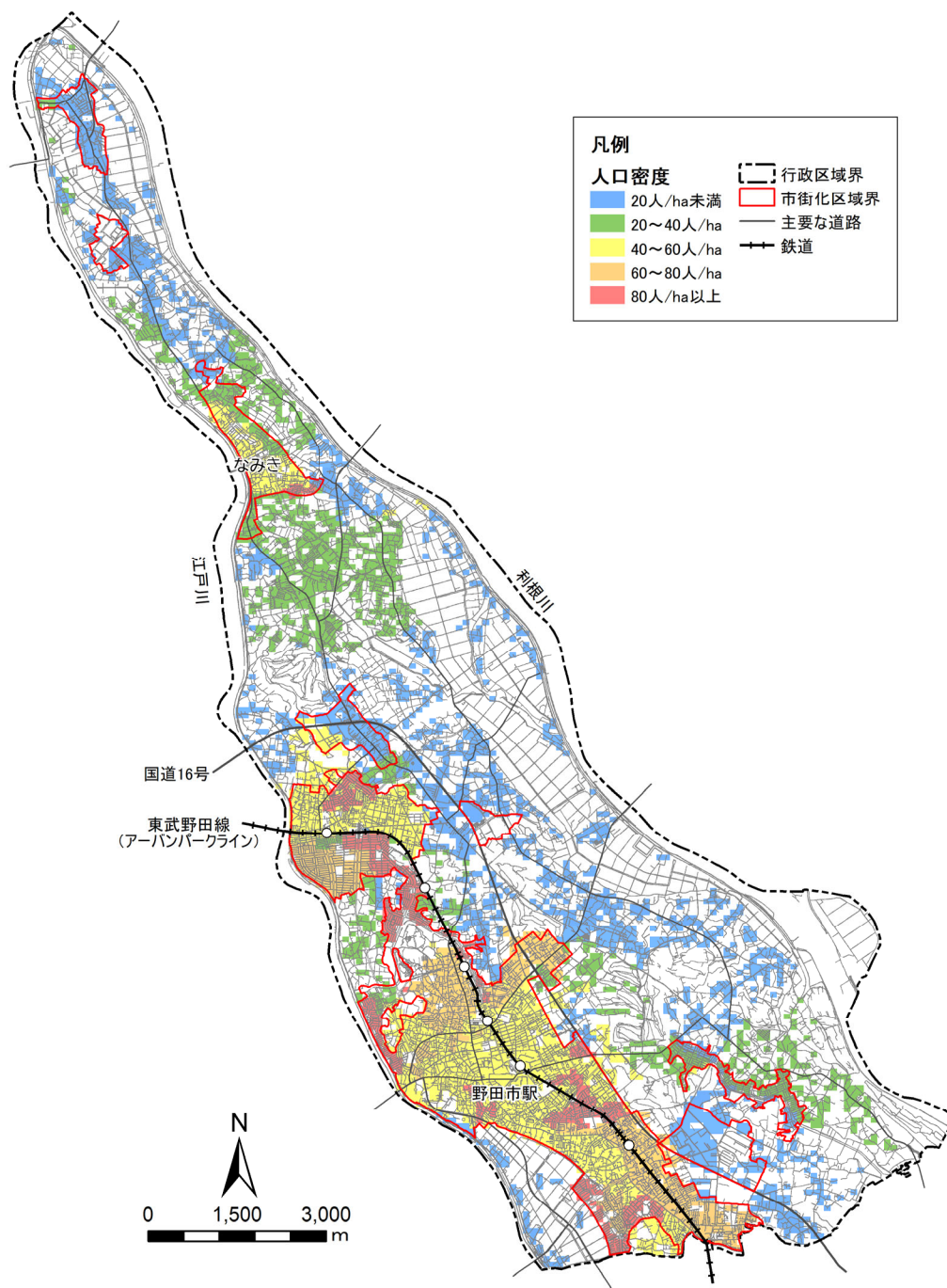


[出典：R2年は国勢調査、R7年以降は日本の地域別将来推計人口（令和5年（2023年）推計）、社人研]

4 人口分布

現況人口分布図をみると、鉄道沿線やなみき付近で人口密度が高くなっています。
 なお、令和2年（2020年）の人口は152,638人となっています。

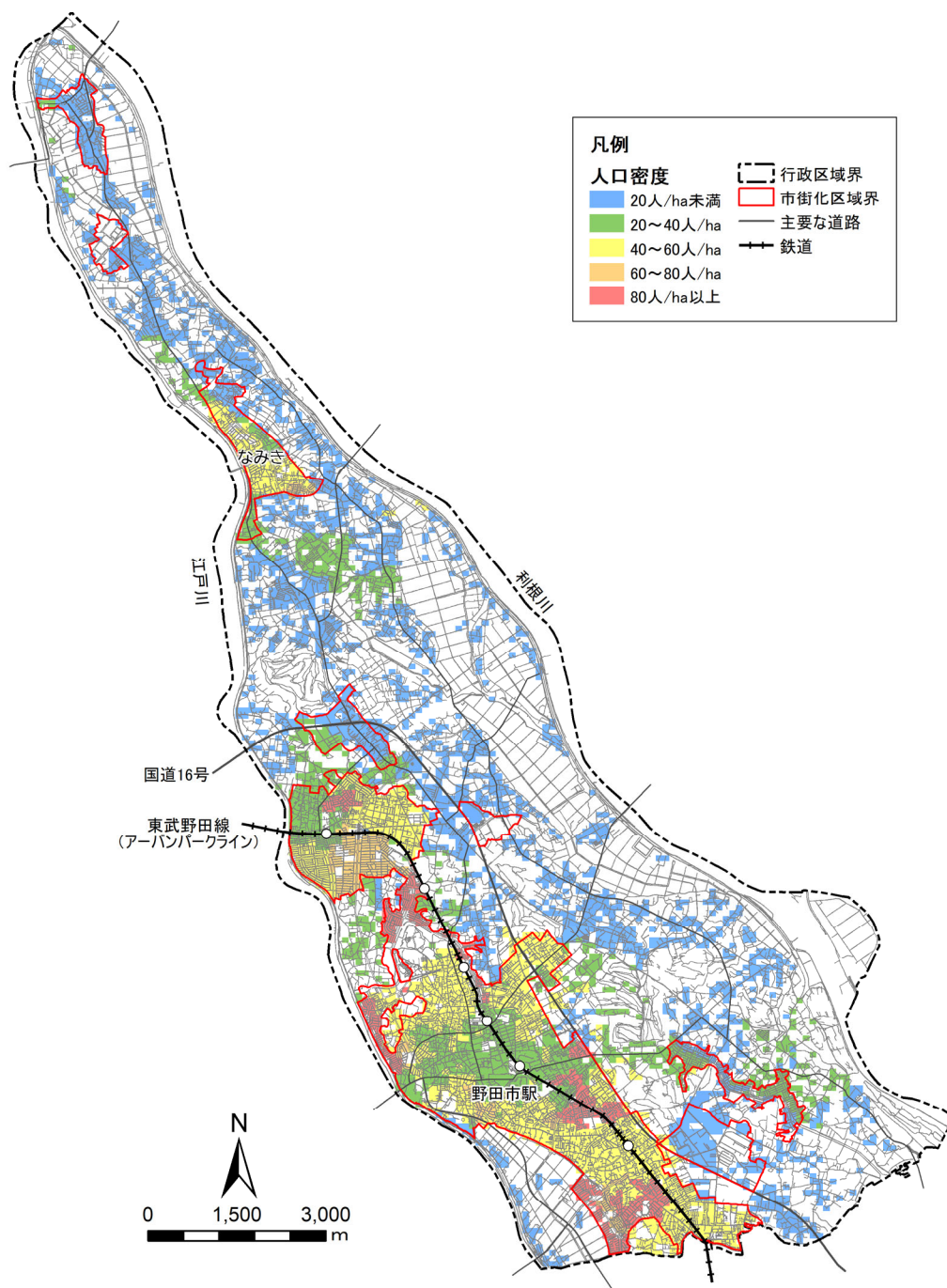
■ 現況人口分布図（令和2年（2020年））





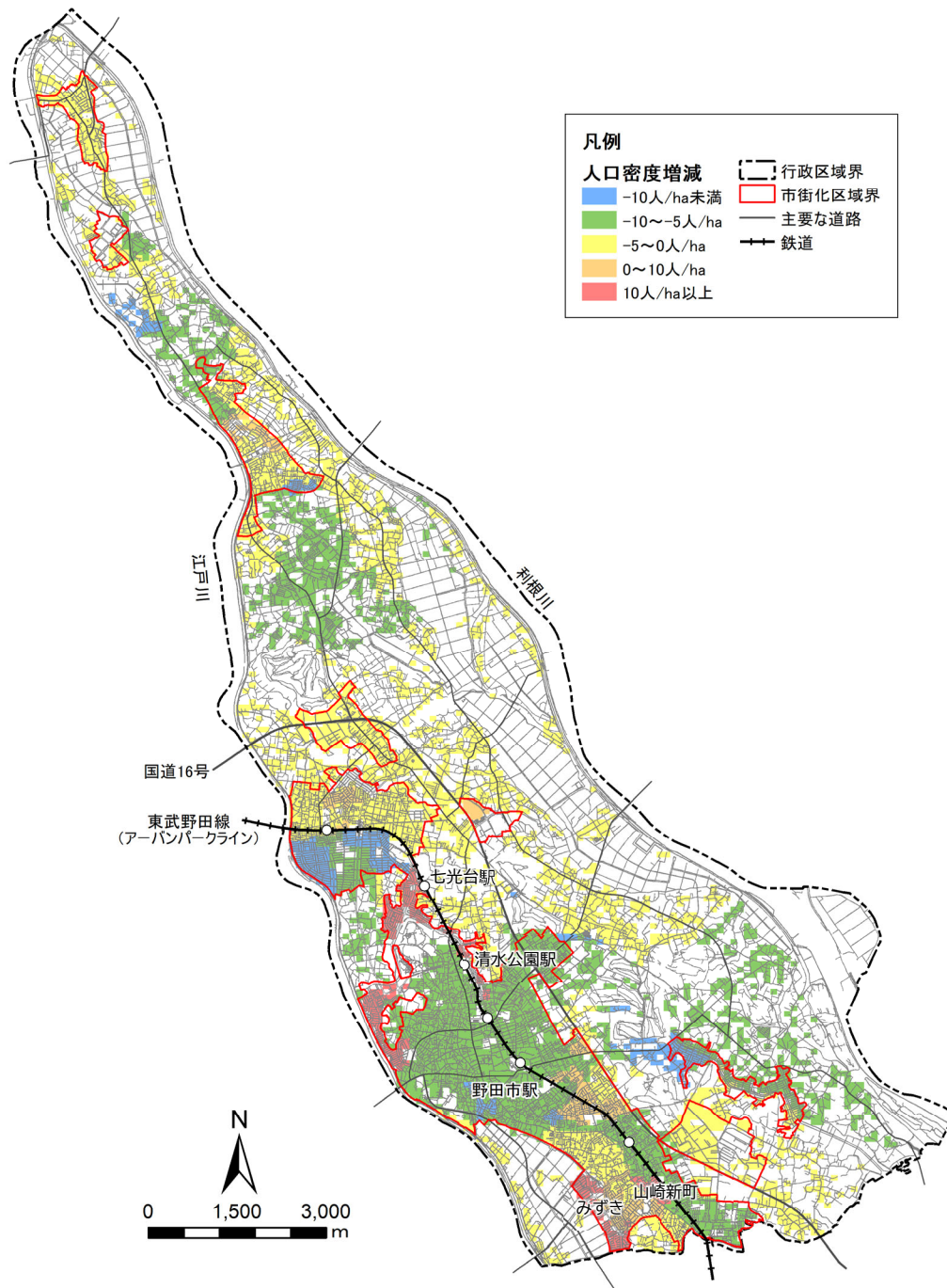
将来人口分布図をみると、現況とおおむね同様の傾向となっています。
 なお、令和27年（2045年）の人口は135,088人と推計されています。

■ 将来人口分布図（令和27年（2045年））



人口密度増減図をみると、七光台駅・清水公園駅周辺、桜の里・つつみ野・山崎新町・みずき付近など野田地域の一部では人口密度が増加しますが、それ以外の場所ではおおむね人口密度が減少することが推定されています。

■ 人口密度増減図（令和2年（2020年）→令和27年（2045年））





5 通勤・通学の状況

市内に常住する通勤・通学者は 81,768 人であり、そのうち市内への通勤・通学者は 43,282 人 (52.9%)、市外への通勤・通学者は 38,486 人 (47.1%) となっています。また、市内を従業地・通学地とする通勤・通学者は 67,881 人であり、そのうち市内からの通勤・通学者は 43,282 人 (63.8%)、市外からの通勤・通学者は 24,599 人 (36.2%) となっています。

市内への通勤・通学者より市外への通勤・通学者が多く、約 14,000 人の流出超過となっています。

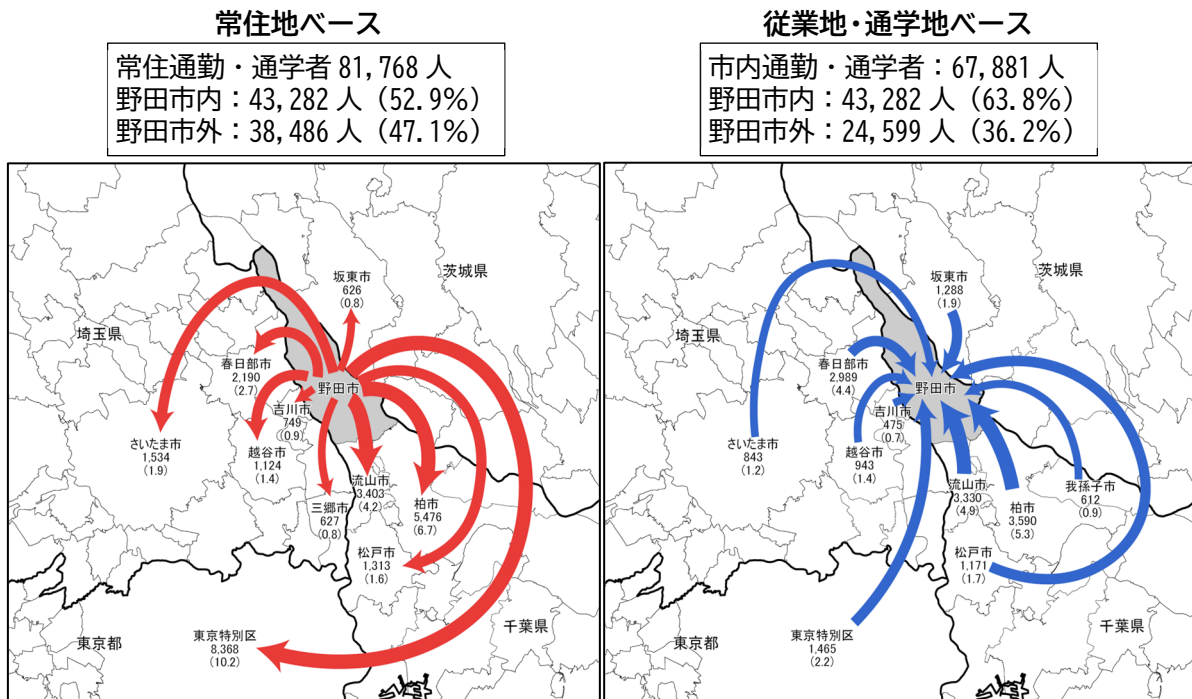
通勤・通学流動図をみると、市外への通勤・通学先 (常住地ベース) では、東京特別区が 8,368 人 (10.2%) と最も多く、次いで柏市が 5,476 人 (6.7%)、流山市が 3,403 人 (4.2%) となっています。市外からの通勤・通学元 (従業地・通学地ベース) では、柏市が 3,590 人 (5.3%) と最も多く、次いで流山市が 3,330 人 (4.9%)、春日部市が 2,989 人 (4.4%) となっています。

柏市、流山市とは流入・流出の両面で、東京特別区とは流出の面での結び付きが強いことがわかります。

■ 通勤・通学流動図 (令和2年 (2020年))

※数字：実数 [単位：人]、() 内は割合 [単位：%]

※通勤者：従業の場所が常住の場所 (自宅) と異なる就業者



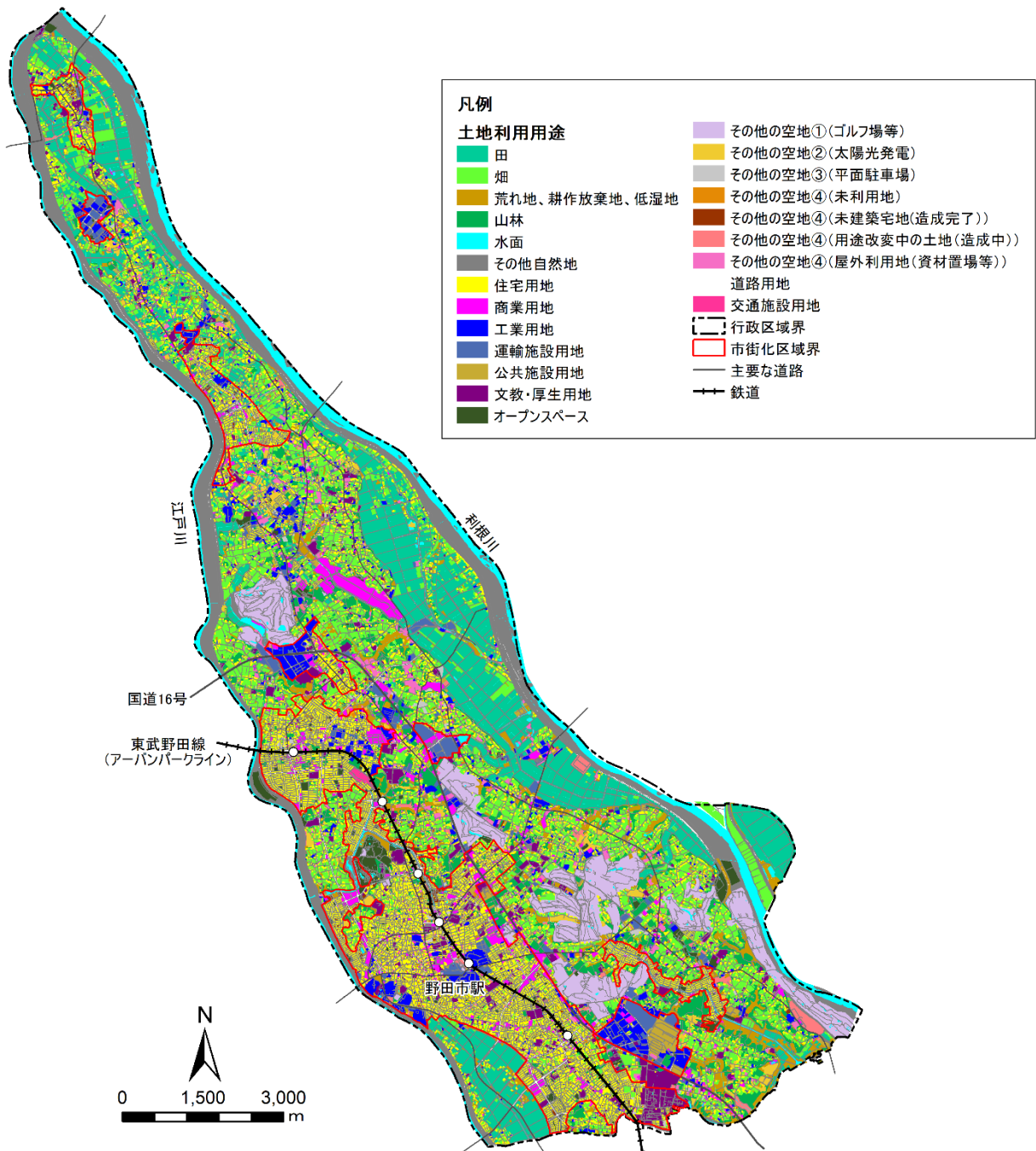
[出典：国勢調査]

(3) 土地利用等

1 土地利用現況

土地利用現況図をみると、市街化区域内では主に住宅用地が広がるほか、国道16号の沿道には、工業用地が集積しています。また、市街化調整区域内では田畑が多く広がるほか、市東南部ではゴルフ場が広く分布しています。

■ 土地利用現況図

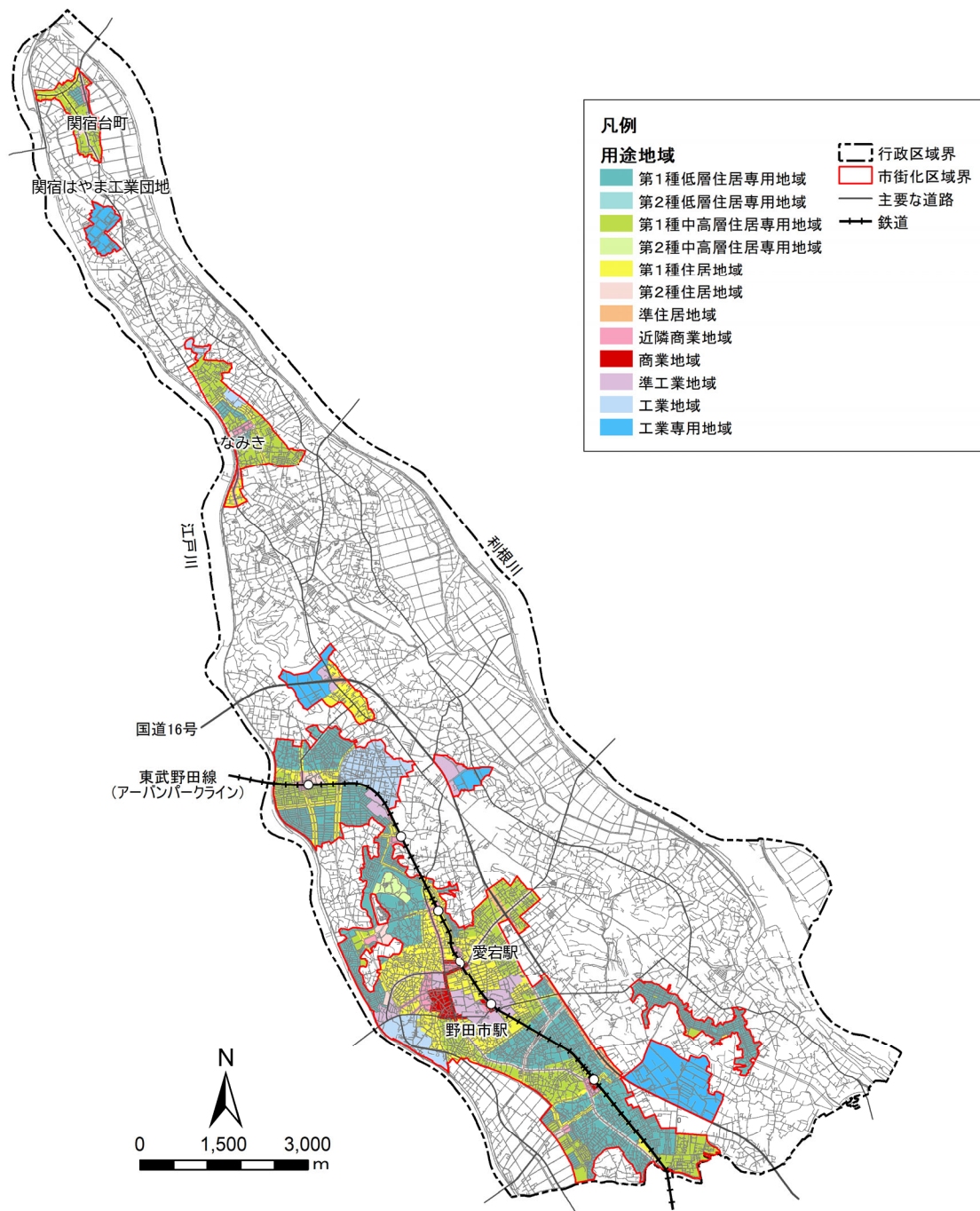




2 用途地域

住居系用途地域は関宿台町・なみき付近、鉄道沿線、商業系用途地域は愛宕駅・野田市駅の西側、工業系用途地域は関宿はやま工業団地や国道16号沿い、野田市駅周辺を中心に指定しています。

■ 用途地域指定状況図

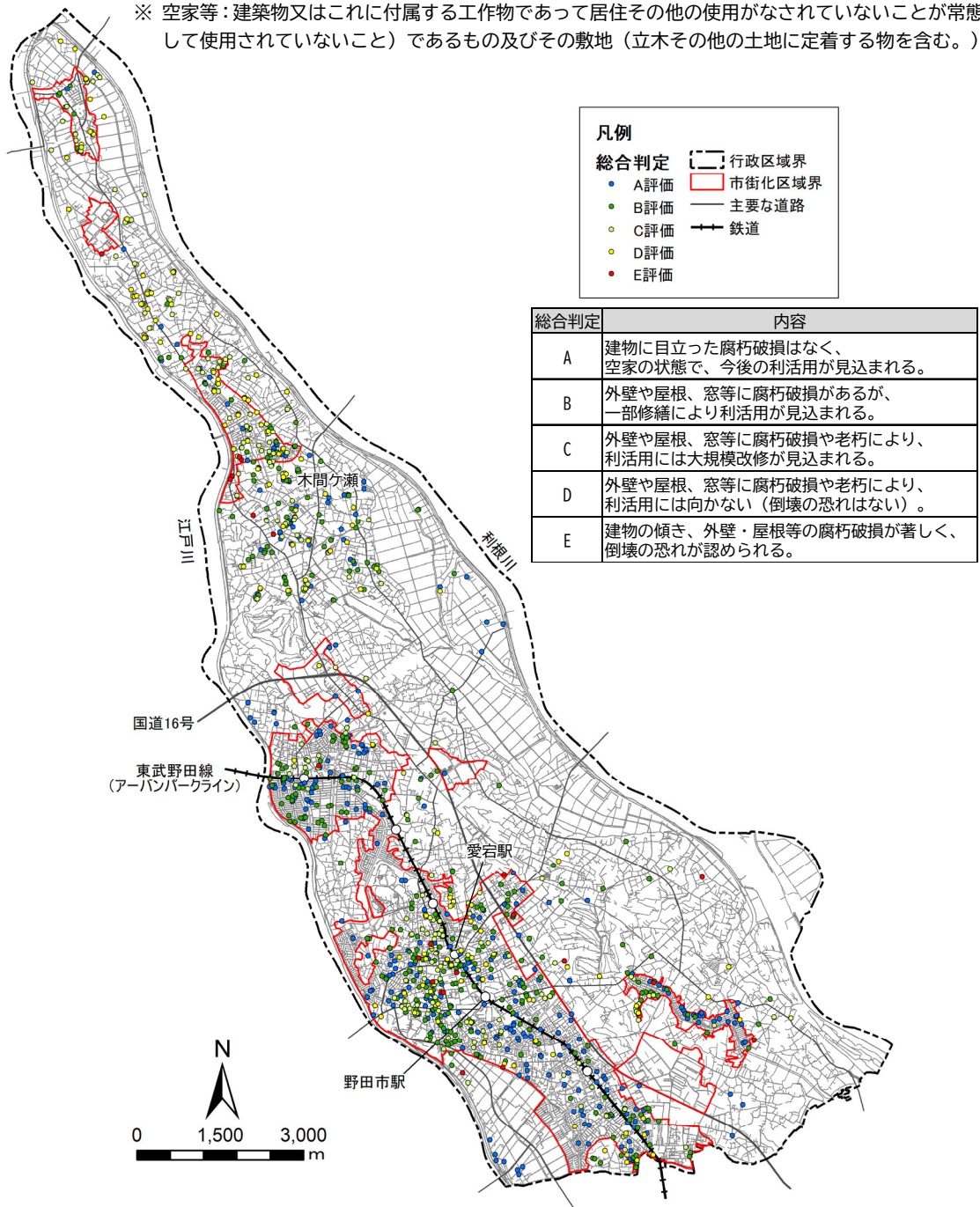


3 空家等の動向

空家等の分布図をみると、野田市駅・愛宕駅の西側、木間ヶ瀬付近を中心に空家等が多くみられます。また、腐朽破損や老朽化が著しい総合判定C～Eの空家等は、愛宕駅の西側に多いです。

■ 空家等の分布図

※ 空家等：建築物又はこれに付属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態（年間を通して使用されていないこと）であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着する物を含む。）



[出典：野田市空家等対策計画]

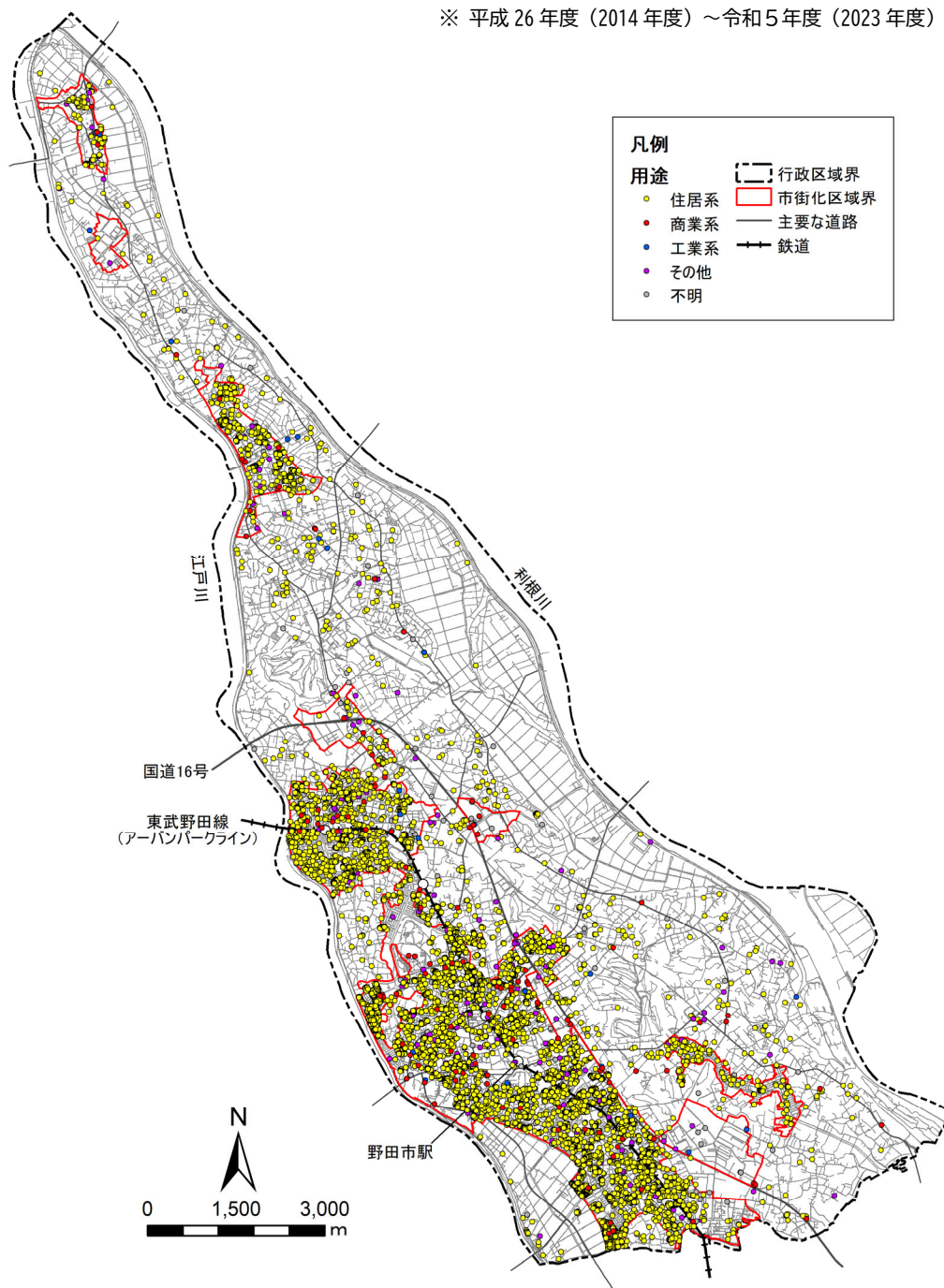


4 新築動向

新築の分布図をみると、全体として住居系が多くなっていますが、市街化調整区域内の幹線道路沿いには、商業系の新築が点在しています。

■ 新築の分布図

※ 平成26年度（2014年度）～令和5年度（2023年度）までの新築位置を図示



[出典：千葉県建築物動態調査]